

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第2週の発生動向

□ トピックス

・インフルエンザ (定点把握の対象となる疾患)の第2週 (1/9~1/15) の定点当たりの報告数は 17.0 と、今シーズン初めて流行注意報基準値 (10.0) を上まわりました。昨シーズンと比較して2週早くなっています。詳細後述。

□ 全数報告の感染症 (2週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核 3例。3類感染症：報告なし。

4類感染症：E型肝炎 1例、つつが虫病 3例。5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	都城	40歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	無症状病原体保有者	—
			80歳代	女	無症状病原体保有者	—
4類	E型肝炎	宮崎市	60歳代	女	—	全身倦怠感、食欲不振、肝機能異常
			60歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、咽頭痛
	つつが虫病	都城	70歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
			30歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60歳代	男	—	発熱、全身倦怠感、肺炎、菌血症 ワクチン接種歴無し

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 1,750 人 (定点当たり 39.1) で、前週比 127% と増加した (年始含む)。前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と水痘であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

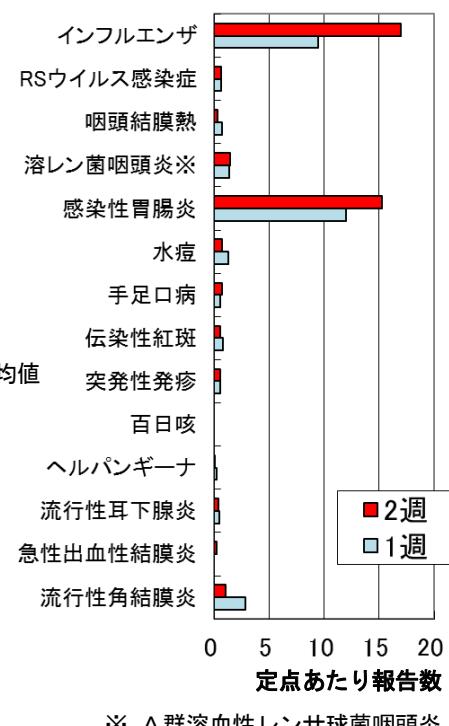
報告数は 1,003 人 (17.0) で、前週比 180% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (21.0) の約 0.8 倍であった。日向 (36.0)、延岡 (20.3)、日南 (18.8) 保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。

【感染性胃腸炎】

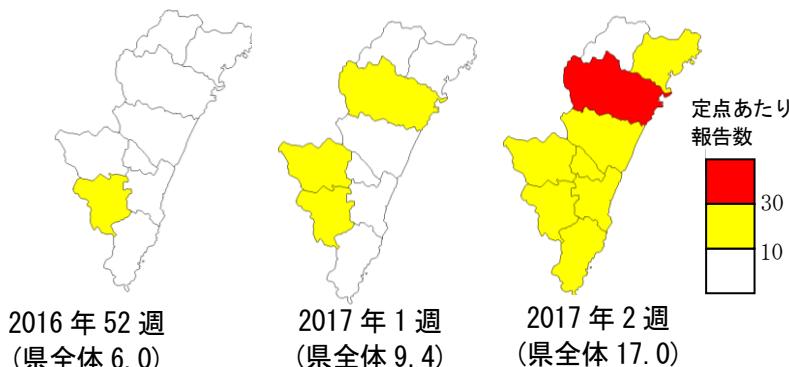
報告数は 549 人 (15.3) で、前週比 128% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (12.6) の約 1.2 倍であった。日南 (41.0)、小林 (22.7)、都城 (19.0) 保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。

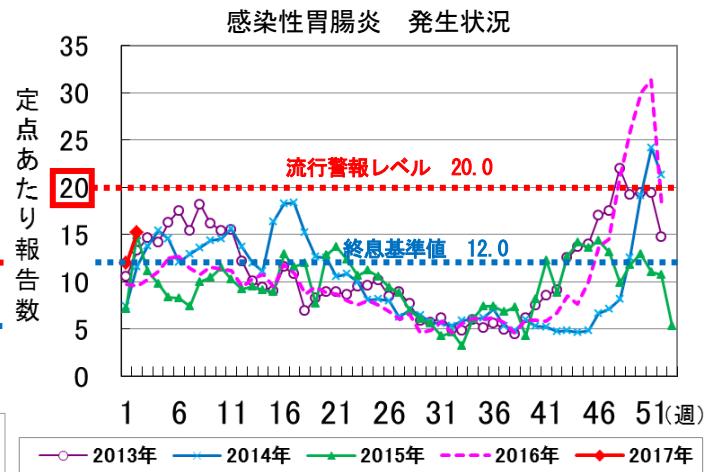
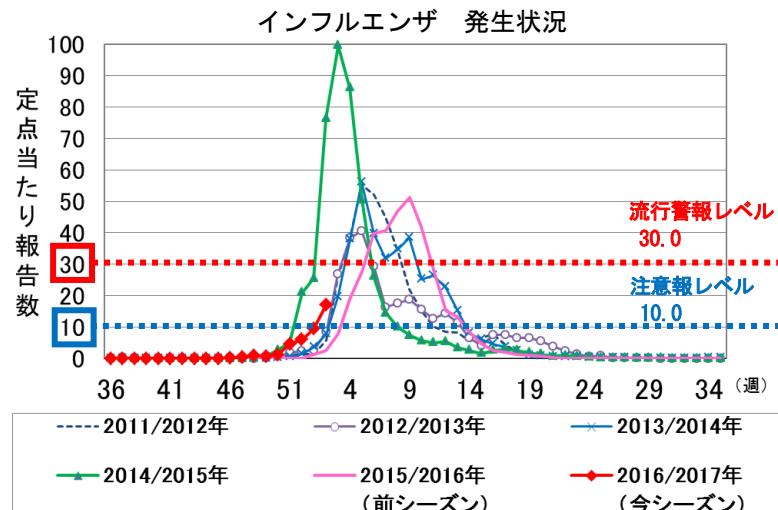
* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

《前週との比較》

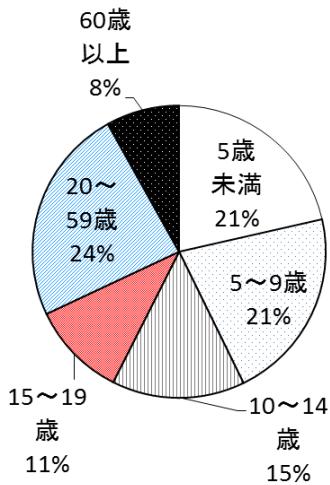


保健所別インフルエンザ警報・注意報レベル状況

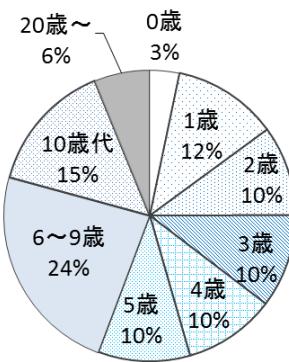




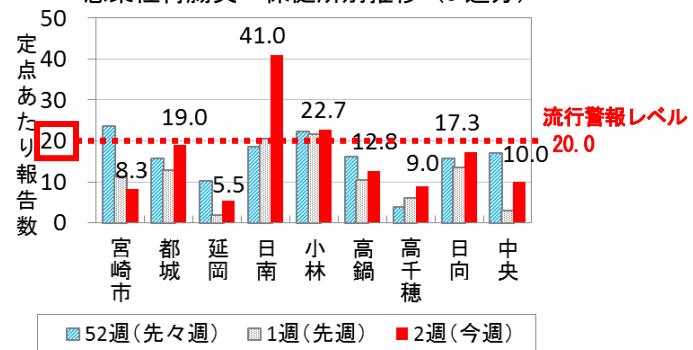
インフルエンザ 年齢群別割合



感染性胃腸炎 年齢群別割合



感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎 :

延岡、高鍋、日向(各1例)保健所から報告があった。いずれも5~9歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(11.2)
都城	インフルエンザ(18.2)
延岡	インフルエンザ(20.3)
日南	インフルエンザ(18.8)、感染性胃腸炎(41.0)
小林	インフルエンザ(18.6)、感染性胃腸炎(22.7)
高鍋	インフルエンザ(11.8)
高千穂	なし
日向	インフルエンザ(36.0)
中央	インフルエンザ(11.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

- ・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成29年1月16日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella Oranienburg (O7:m,t:-)	20歳代	女	2016.12.28	—	便	2017.01.11
Mycobacterium bovis BCG由来菌	0~4歳	女	2016.12.13	発熱(38.0°C)、右腋窩皮下硬結 BCG接種部位発赤	皮膚病巣	2017.01.06

○発熱、皮下硬結、接種部位の発赤を呈した0~4歳の女児からMycobacterium bovis BCGが検出された。Mycobacterium bovis BCGは、ワクチンとして用いられている菌株であるが、そのほかの結核菌群との鑑別は同定キットなどでは難しく、PCR法が有用である。BCG接種による副反応と結核菌群による感染症では似た症状を呈する場合もあるが、治療方針や予後が異なるため、早期にBCG菌とそのほかの結核菌群を鑑別することは重要である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
エコーウイルス9型	0~4歳	男	2016.11.19	不明の発疹症、38.7°C、丘疹	咽頭ぬぐい液	2017.01.11
ライノウイルス	0~4歳	男	2016.11.22	肝機能障害、37.0°C、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)、中耳炎	咽頭ぬぐい液	2017.01.05
ライノウイルス	0~4歳	男	2016.12.08	喘息性気管支炎(急性増悪)、39.0°C、気管支炎、胃腸炎(下痢・嘔気・嘔吐)、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(肺炎)	咽頭ぬぐい液	2017.01.05
ライノウイルス	0~4歳	男	2016.12.16	急性気管支炎、マイコプラズマ感染症、39.8°C、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.01.05
ヒトメタニューモウイルス	0~4歳	男	2016.11.21	喘息性気管支炎、39.0°C、下気道炎(気管支炎)、喘鳴、咳	咽頭ぬぐい液	2017.01.05
ノロウイルスGII	0~4歳	男	2017.01.12	胃腸炎(下痢・嘔気・嘔吐)、腸重積症、38.3°C	便	2017.01.16

○喘息性気管支炎と診断された乳児からヒトメタニューモウイルスが検出された。ヒトメタニューモウイルスの感染は母親からの移行抗体が消失する生後6ヶ月くらいから始まり、2歳までに約半数が、10歳までにほぼ全員が感染し、大人になるにつれて何回も感染を繰り返すうちに徐々に免疫がついてくる。症状は一般的に軽症であるが、まれに脳炎・脳症を起こすこともある。

○乳児2名、幼児1名からライノウイルスが検出された。急性の呼吸器系感染症の約半数はライノウイルスによると考えられているが、ライノウイルスに感染しても症状は軽く、一般には数日で軽快する。また、ライノウイルス感染者の約1/3は不顕性感染であることが知られている。一方で、小児の喘鳴や喘息増悪の6割から7割にライノウイルスが関与すると言われており、感染率も乳幼児・小児で高く、年齢が高くなるにつれて低くなることから乳幼児・小児は特に注意が必要である。

■ 全国 2017年第1週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第1週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	187 例			
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	9 例	
4類感染症	E型肝炎	2 例	A型肝炎	1 例	つつが虫病
	デング熱	3 例	マラリア	1 例	レジオネラ症
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症
	急性脳炎	6 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 例	後天性免疫不全症候群
	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例	侵襲性肺炎球菌感染症
	水痘（入院例）	3 例	梅毒	26 例	破傷風
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	麻しん	2 例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比88%と減少した(年末年始を含む)。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎であった。

インフルエンザの報告数は52,082人(10.6)で前週比124%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(8.8)の約1.2倍であった。岐阜県(19.9)、秋田県(18.3)、愛知県(18.3)からの報告が多く、年齢別では5歳未満が全体の約2割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は2,608人(0.83)で前週比115%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.47)の約1.8倍であった。新潟県(4.3)、山口県(2.8)、和歌山県(2.5)からの報告が多く、年齢別では4~6歳が全体の約4割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2016年12月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は38人(2.9)で、前月比131%と増加した。また、昨年12月(2.2)の約1.3倍であった。

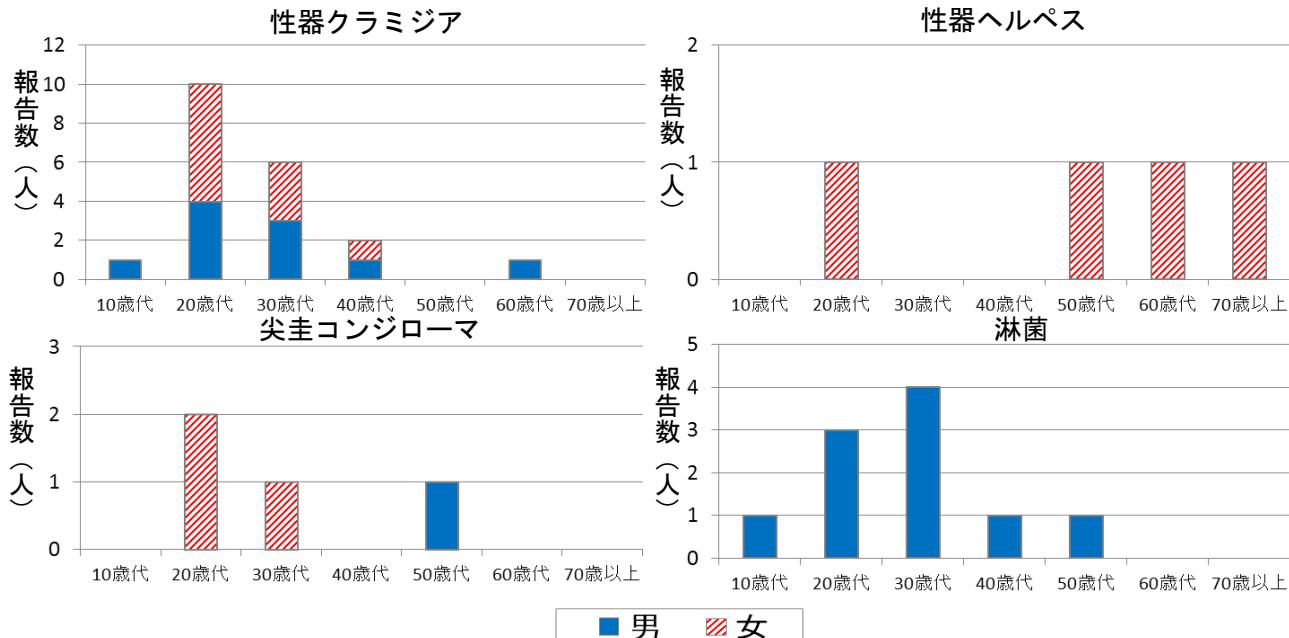
《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月(1.3)の約1.2倍、昨年12月(1.2)の約1.3倍であった。20歳代が全体の半数を占めた。(男性10人・女性10人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人(0.31)で、前月(0.38)の0.8倍、昨年12月(0.54)の約0.6倍であった。(女性4人)

○尖圭コンジローマ：報告数4人(0.31)で、前月(0.15)の2.0倍、昨年12月(0.15)の2.0倍であった。(男性1人、女性3人)

○淋菌感染症：報告数10人(0.77)で、前月(0.38)の2.0倍、昨年12月(0.31)の2.5倍であった。(男性10人)



【全国】定点医療機関総数：983

定点医療機関からの報告総数は3,704人(3.8)で、前月比98%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,927人(2.0)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症754人(0.77)で前月比104%、尖圭コンジローマ411人(0.42)で前月比91%、淋菌感染症612人(0.62)で前月比93%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は8人(1.1)で前月比38%と減少した。また、昨年12月(2.7)の約0.4倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数8人(1.1)で、前月の0.4倍、昨年12月(2.4)の約0.5倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：475

定点医療機関からの報告総数は1,499人(3.2)で、前月比100%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,316人(2.8)で前月比99%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症164人(0.35)で前月比106%、薬剤耐性緑膿菌感染症19人(0.04)で前月比200%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2017年 第2週(1月9日～1月15日)

疾病名		第1週	第2週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数 定点あたり	556 9.42	1003 17.00	179 11.19	182 18.20	142 20.29	94 18.80	93 18.60	71 11.83	4 2.00	216 36.00	22 11.00
RSウイルス 感染症	報告数 定点あたり	23 0.64	23 0.64	5 0.50	9 1.50	7 1.75	1 0.33	- 0.00	1 0.25	- 0.00	- 0.00	- 0.00
咽頭結膜熱	報告数 定点あたり	25 0.69	11 0.31	5 0.50	- 0.00	1 0.25	4 1.33	- 0.00	- 0.00	- 0.00	1 0.25	- 0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数 定点あたり	49 1.36	53 1.47	23 2.30	3 0.50	3 0.75	10 3.33	1 0.33	6 1.50	3 3.00	2 0.50	2 2.00
感染性胃腸炎	報告数 定点あたり	430 11.94	549 15.25	83 8.30	114 19.00	22 5.50	123 41.00	68 22.67	51 12.75	9 9.00	69 17.25	10 10.00
水 痘	報告数 定点あたり	45 1.25	26 0.72	- 0.00	- 0.00	2 0.50	7 2.33	1 0.33	- 0.00	- 0.00	14 3.50	2 2.00
手足口病	報告数 定点あたり	19 0.53	24 0.67	2 0.20	5 0.83	9 2.25	4 1.33	1 0.33	3 0.75	- 0.00	- 0.00	- 0.00
伝染性紅斑	報告数 定点あたり	29 0.81	20 0.56	4 0.40	1 0.17	5 1.25	2 0.67	1 0.33	- 0.00	- 0.00	7 1.75	- 0.00
突発性発しん	報告数 定点あたり	20 0.56	19 0.53	7 0.70	2 0.33	2 0.50	2 0.67	- 0.00	3 0.75	- 0.00	1 0.25	2 2.00
百 日 咳	報告数 定点あたり	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00
ヘルパンギーナ	報告数 定点あたり	6 0.17	1 0.03	1 0.10	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00
流行性耳下腺炎	報告数 定点あたり	15 0.42	12 0.33	1 0.10	3 0.50	2 0.50	- 0.00	- 0.00	3 0.75	1 1.00	2 0.50	- 0.00
急性出血性結膜炎	報告数 定点あたり	- 0.00	1 0.20	1 0.50	- 0.00	- 0.00						
流行性角結膜炎	報告数 定点あたり	14 2.80	5 1.00	5 2.50	- 0.00	- 0.00						
細菌性結膜炎	報告数 定点あたり	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00
無菌性結膜炎	報告数 定点あたり	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00
マイコプラズマ 肺炎	報告数 定点あたり	2 0.29	3 0.43	- 0.00	- 0.00	1 1.00	- 0.00	- 0.00	1 1.00	- 0.00	1 1.00	1 1.00
クラミジア肺炎	報告数 定点あたり	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数 定点あたり	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00	- 0.00

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数

下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～2週)

2類感染症	結 核	8例(3)
4類感染症	E型肝炎	1例(1)
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1例(1)

()内は今週届出分、再掲